

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村幸牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎石川 ■

「旅客機非常事態」

米ユナイテッド航空の国内便で、飛行中に機長が突然体調を崩し、たま乗客として乗っていた空軍のパイロットが操縦席に着く出来事があった。異変は二〇一三年十二月、アイオワ州デモインからコロラド州デンバーに向かう途中のユナイテッド航空ボーイング737型機の機内で起きた。客室乗務員が機体前方に集まり、救急用品を持って駆け付けるなど、非常事態は明らかだった。同機の乗客として家族と共に搭乗していた米空軍大尉のマーク・コンゴルさんは、爆撃機「B1Bランサー」のパイロットだが、妻と目が合うと「あなたから申し出るべきだと思う」と促されたという。操縦室では乗客と乗員が機長を運び出すところだった。機長は心臓発作を起こした様子で、顔色が悪く冷や汗をかいていた。同機は副操縦士の判断で近くのオマハ空港に向かうことになった。コンゴルさんは副操縦士の補佐役として操縦席に着き、管制塔との通信を担当。機長や乗客、機体の状況を伝え続け、同機は無事、空港に着陸した。結局コンゴルさんが操縦を担うことはなかったが、爆撃機とボーイング737の違いは、ピックアップトラックとセダンの違いのようなもので、必要があれば操縦できていたと振り返る。今回の出来事は、最近、空軍がマスコミの取材を受けて初めて明らかになった。一命を取りとめて回復した機長から、1〜2カ月後、コンゴルさんに電話があったという。妻は「よくやったね」とほめてくれた、とコンゴルさんは笑顔を見せた。(二〇一四年六月四日『CNN』放送)

かつてダビデが敵の巨人ゴリアテと戦った時、ダビデは「おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう」(1サムエル一七・45)と言って、手に持ったのは杖と五つの石と石投げであった。この戦いは主の戦いであると信じて立ち向かったのである。羊飼いの少年ダビデは、大切な羊を外敵から守るために用いた道具でゴリアテの額に石を命中させて倒したのである。主は、ご自身の目的のために、私たちが日頃培ってきた技や経験を用いられるのであり、大切なことは私たちが主に信頼し、主のご用に使うて頂きたいと心から願って一歩踏み出すかどうかである。

Rev. Tsukasa Sugimura

【わたしたちの教会の歩み】

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村幸牧師をはじめ、榊原宣行牧師、加藤伸江姉、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをしております。

【ミッション ステートメント】

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。